

令和2年度 公民館の主な事業活動

公民館	現 状 と 課 題	改 善	方 向 性 と 取 組
中央	<ul style="list-style-type: none"> 各講座への若年層の参加が少なく、高齢者の割合が非常に高い。高齢化のため、学習成果等をボランティア活動や自主活動に反映する視点を持った人材が数少ない。 会員、講師それぞれの高齢化により、登録団体数が減少傾向にある。 子育てサロン(家庭教育支援事業)は参加者が漸増傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 過去の公民館活動を端緒とする、朝日地区住民による「ふまねっと教室」「るるんんサークル」の参加者が逡減傾向にある。 地域の民生委員等と「子育てサロン」や「親子やんちゃ塾」を継続して行っており、連携の状態は良好である。 	<ul style="list-style-type: none"> 参加者が逡減傾向にある「子育てサロン」や軽運動、将棋道場などの魅力を高めるよう努める。 現行のフォーラムの内容では意見が出づらく、参加者もあまり見込めないため、健康づくりの講座を複数回開催する機会などを生かし、アンケートを採って意見を聞く方式も加える予定である。 中央地域包括支援センターと協働で行うファシリテーター養成講座「いきいきシニアライフ」を全世代に変更して実施し、これにより相手方として可能な対象を発掘し事業実施を目指す。 若い世代の利用増のため、公民館の利用促進や新規登録団体の獲得を目指し開放事業を実施する。
永山	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援「子育てサロン」「親子ふれあい体験学校」、成人学習「市民講座」、高齢者学習「百寿大学」など、柱となる事業は多くの参加者があり、一定の成果が図られた。 単独事業では「夏休み親子陶芸教室」「夏休み楽しい工芸室」「年賀状作りに挑戦」「ものしり教室」「健康料理教室」「高齢者健康作り教室」を実施し、定員に達するものもあり、一定の成果が図られた。 ボランティア活動を行う団体はあるが、人材の育成に直接つながる講座は少ない状況である。 生涯学習活動登録団体は前年度から5団体減となった。多くの団体が会員の高齢化などによる減少を危惧している。 サークル体験入門は1回のみの実施となったが、新規入会者が生じるなど一定の成果があった。 	<ul style="list-style-type: none"> 「夏休み楽しい工芸室」「ぶきっちょ館長の工作チャレンジ」は工作物を全く別にしたし、実施内容に変化を加えて行った。 「薬膳講座」は調理に特化するなど内容を変えて実施した。 「市民講座」を広く知ってもらうため、公開講座を1回開催した。 	<ul style="list-style-type: none"> 「子育てサロン」、「親子ふれあい体験学校」、「市民講座」、「百寿大学」の柱となる事業は通年開催により一定の成果があったため、カリキュラムの内容を変更するなどし拡充していく(「親子ふれあい」は元年度で終了)。また、「市民講座」では公開講座を行い、新規受講者の掘り起こしを行う。 サークル体験入門などにより、高齢化と減少傾向にある団体・サークルの活動支援を継続する。 人材育成につながる事業は、サークルにも協力を仰ぎながら実施を検討していく。
東旭川	<ul style="list-style-type: none"> 家庭教育支援事業や青少年事業は多くの参加者を得ているが、少子化などにより今後の増加は見込めない状況である。 生涯学習活動団体の地域還元協力団体は昨年比1.5倍に増えており、成果が出てきている。 新規に2講座実施したが、開催曜日等を再考しなければならなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習活動団体に説明会等でさらなる地域還元の必要性を依頼した。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業の見直しを行うとともに、新規事業の開催や講師の発掘に努める。 コミュニティ・スクールモデル事業に公民館も参加していることから、館として何ができるかを検討していく。
神楽	<ul style="list-style-type: none"> 地域団体と連携し、まちづくりの拠点としての機能が求められている。 公民館事業及び登録団体への参加者の年齢層が比較的高いため、より若い層へのPRや魅力ある内容が求められている。 登録団体数も各室利用率もほぼ前年同様の状態が続いており、日常的に混み合っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者サロンや学習支援など地域団体と共催でまちづくりに関わる事業に取り組んだ。 家庭教育支援事業において、より若い世代の参加者の掘り起こしを継続した。 前年同様、サークル体験や町内会へのチラシ配布により登録団体の紹介や活性化に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域連携を強化し、ひとづくり・地域づくりに関わる事業展開を進めていく必要がある。 引き続き、登録団体の活動を地域住民や地域の団体にPRしていく。 地域の団体から年間利用計画などを提出してもらい、優先して部屋を確保することで活動を支援し、連携を強化する。
末広	<ul style="list-style-type: none"> 百寿大学の学生数は前年度より増えているが、高齢者学習の参加人数は減少している。 地域の実情や住民の学習ニーズの把握が難しく、新規事業の開催に苦慮している。申込者がなく、または少ないため中止が2事業あった。 予算も限られており、無料講師の発掘が課題である。 定期利用団体で、解散や利用をやめた団体が複数あり、利用者数は減少傾向にあるが、定期的に利用を始めた団体もある。 4月から使用料が値上げになることから、他の施設に変更した定期利用団体があり、値上げによる利用者数の減少が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員割れが続いていた「足もみ健康講座」を4回から2回に変更し、同じ講師で「ハンドマッサージ講座」全2回を実施した。 「親子スポーツ吹き矢教室」は子どもだけで参加できるよう計画したが、申込がなく中止。「夏休み体験学習(紙遊館)」はマイクロバス使用削減のため廃止とした。 地域フォーラムで希望のあった平成30年度廃止の「サークル体験教室」を「サークル体験・見学会」として実施し、サークル会員増につながったため、年1回を2回とした。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な学習機会の提供を図るためにも、地域の実情や住民の学習ニーズの把握に努め、既存事業や元年度新たに開催した事業の検証を行うとともに新規事業の開発を図る。 事業のスクラップアンドビルドを行う。2年度は「吹き矢」と「ガレット作り」を廃止し、新規として「書道ワークショップ」、「足もみ」の講師による「青竹ふみの上手な活用法講座」を実施する。 地域課題や学習ニーズの把握においては、地域フォーラムや各講座実施後のアンケート等を活用するとともに、まちづくり推進協議会や地域包括支援センター等の関係機関と連携し進めていく。

公民館	現状と課題	改善	方向性と取組
江丹別	<ul style="list-style-type: none"> ・冬季事業は、積雪や交通アクセスの問題があり参加者が見込めず中止した経過があり、以降未実施。 ・事業全体に地域住民の参加・支援を得ているが、参加者の拡大につながっていない。 ・施設利用では一般の利用はほとんどなく、地域の各種団体の利用で固定化されている状況にある。 ・事業に関わる支援団体の後継者不足やフォーラムにおける参加者の固定化が懸念される。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「小中学生」に限定していた参加条件を「幼児から」「小学生以上」に広げるなど参加者確保の工夫に取り組んだ。 ・地域内外から来館する公民館フェスティバルで、地域団体の活動や四季の風景、施設紹介などプロジェクター上映し、江丹別地域に対する理解やPRIに取り組んだ。 ・フォーラム開催に当たり、地域と関連ある民間企業などへ呼びかけ、参加者を確保することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実施事業の参加動向の検証、長期継続によるマンネリ化や目的を一定程度果たしている事業の廃止や内容の見直しに取り組む。 ・公民館と地域住民との距離が近いことを生かし、ニーズの把握、情報交換などにより事業立案への反映と内容の充実に取り組む。
東鷹栖	<ul style="list-style-type: none"> ・利用団体の高齢化が進み、活動の中止や縮小が見られる。 ・高齢者は事業に対する関心はあるが参加者が少なく、若い世代は関心も薄い。 ・階段を利用することの困難な方の参加が課題となっている。 ・生涯学習活動団体は会員数の減少により解散する団体が増えている。 ・体験学習会を行っても参加者がいない。 ・公民館フォーラムの参加者が少ない。 ・開放事業は利用者が固定化している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・館内にある地域子育て支援センターの利用者に、家庭教育支援事業の呼びかけを行い、参加者が増加した。 ・夏休みの一日を、午前は学習支援事業、午後は青少年事業を行い、共に参加者が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域子育てセンターと連携し、家庭教育支援及び青少年対象の事業を充実させたい。 ・地域包括支援センターと連携し、高齢者が参加しやすい事業を模索していく。 ・ロビーやふれ合い広場は放課後の子どもの遊び場として機能しており、学習支援もを行い、子どもの居場所づくりを充実させたい。 ・生涯学習活動団体の体験学習会は参加者が増加するような方を模索しながら実施する。
神居	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動登録団体会員の高齢化が進んでおり、団体の存続に影響が出ている。 ・百寿大学と地域の小学校との「ふれあい教室」では、昔の遊びを通して世代間交流が図られている。 ・子育てサロンの参加者が、公民館だよりやチラシ及び口コミ等で増加傾向にあり、子育て世代の交流促進、孤立化の防止につながっている。妊婦の参加も可能としたが参加者は少ない。 ・女性を対象とした「女性大学(4年制)」「女性学級(単年制)」を開講し、女性同士の交流や生涯学習の推進が図られているが、高齢等により学生は減少傾向である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の町内会向け「公民館だより」にサークル団体のPR等を定期的に情報発信し会員募集を行っており、サークルへの問合せや見学希望者が増えている。 ・「子育てサロン」の参加者増に伴い、会場を広い会場に変更し、子ども達ものびのびと遊べるようになった。また、駐車場が満杯で帰る参加者がいるため、近隣の保育所の協力で駐車場を借り、参加者の駐車スペースを確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年事業で参加者の少ない事業は廃止も含めて見直し、親子参加型の新規事業としては木工教室やお菓子作り教室等親子で参加しやすい事業を構築する。 ・「子育てサロン」では、子育て世代及び妊婦の方の参加を促すため、公民館だよりや母子保健課、子育て支援施設等へのチラシ配布等によりPRを拡充する。 ・世代間交流事業については、核家族化により子どもと高齢者と接する機会が減少していることから、引き続き地域の小学校と連携し、百寿大学の協力を得て、昔遊びの他昔の暮らし等興味深い話を通して事業を充実する。 ・「女性大学」「女性学級」の募集を市内全戸配布の「あかり」などを活用しPRを拡充。また、座学に加え、交流を深める学習を充実させ加入促進に取り組む。
北星	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア活動につながる事業では、地域包括支援センター、社会福祉協議会等との共催を実施し、受講者が事業所などで活動している。 ・「放課後の自習室」は講師役の学生の確保が難しく、中学生の参加が低調であった。 ・「パソコン年賀状作成講座」「男の料理教室」など複数回実施でテキスト代など徴収する講座は定員を下回った。 ・利用者は施設・運営に概ね満足しているが、登録団体数や利用者数は減少傾向にある。 ・北門児童センターが隣接していることから、子育ての相談・交流のニーズはそれほど高くない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「そば打ち体験講座」は、全2回を原則1回の参加に改めた。 ・地域で高齢者を支えていけるよう、地域包括支援センター等と連携して認知症ボランティアの講座を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援事業は、引き続き子育て支援センター「ちゅうりっぷ」との連携を図っていく。 ・「放課後の自習室」は、教育大の協力を仰ぎながら、今後も継続できるよう講師の確保に努める。 ・地域包括支援センターと連携を密にし、高齢者のニーズに合った事業や高齢者の生活の質向上、認知症予防に関する事業を実施していく。 ・児童センターに隣接し、教育大に近いという特色を生かし、地域の家庭教育支援や青少年教育の向上に資する事業を企画・運営していく。
新旭川	<ul style="list-style-type: none"> ・サークル活動の鈍化(高齢化、会員数減、活動休止、公民館まつりへの参加団体減) ・学生数が伸び悩んでいる百寿大学の運営(マンネリ化、高齢化による体力への配慮) ・利用団体の固定化と減少傾向、新規利用(登録)がない。 ・近隣に地区センターや福祉センターがあり、地域行事開催がない。 ・駐車スペースが狭隘で、特に冬期間の事業参加者の駐車に苦慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報発信の新たなツールとして、サークルによるホームページ開設に取り組んだ。 ・定期利用の一般団体に登録の個別説明を行い、登録につながった。 ・冬季の事業において駐車スペースにふさわしい募集に配慮した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な情報発信ツールを活用した事業の紹介(施設・事業内容、サークル活動など) ・フォーラムの意見を反映した具体的な事業企画と実施に向けた関係者との協議 ・地域に配布する公民館だよりに施設PRを掲載し、地域行事を含めた利用促進を図る。

公民館	現 状 と 課 題	改 善	方 向 性 と 取 組
愛宕	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化による人数減りリーダー不在のため活動を終了する登録団体が出てきている。 ・比較的若い世代の事業参加が少ない。 ・利用者の高齢・固定化が顕著となり、新規利用者が少ない。 ・町内会やスポーツ少年団等の利用が多く、地域に根付いている。 ・近隣小学校の児童のロビー利用が増えてきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・廃止団体のメンバーに他団体への加入斡旋を行った。 ・図書室も含めた一般来館者に登録団体のPRを日常的に行った。 ・夏・冬休みの小学生向け工作教室を土日に設定し、保護者の参加が増えた。 ・豊岡まちづくり推進協議会と連携し、子どもの居場所づくりに関わり、軽スポーツの指導など内容を充実した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・登録団体結成のきっかけとなるような事業を選択する。 ・若い世代の参加が可能な開催日を設定する。 ・長期継続している登録団体のスキルを生かした事業を展開し、協力を仰ぐ。
東光	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援、成人学習、高齢者学習事業で参加者が増加傾向となり、一定の成果が得られている。 ・青少年対象事業はマンネリ化しているが参加者が漸増傾向にあり、事業継続と内容の見直しが課題。 ・次世代を担う若い世代の事業参加と人材育成が課題。 ・駐車場が狭いため利便性が悪く、利用者の抑制となり、冬季事業の実施が困難。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育で新規事業(親子冬休み工作教室)を実施し多くの親子の参加があった。 ・成人学習でITシルバークラブとの連携事業は継続を望む声が多く、着実に参加者が増えている。 ・健康体操、介護等に関する市民講座は記念事業として実施し、参加者増が図られた。 ・公民館だよりの定期発行、開館30周年記念事業の実施で、地域からの参加者が増え、公民館事業に対する理解と周知を図った。また、サークル体験の実施により会員増につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人気のある事業の継続とマンネリ化した事業の廃止・見直しを行うと共に、新規事業の開催に向けて新たな講師を発掘し実施を検討する。 ・地域包括支援センター、地域社会福祉協議会等と連携し、<u>高齢者のニーズに合った事業を実施する。</u> ・<u>公民館だよりの継続発行と記念事業の実施成果(参加対象の拡大等)を踏まえた公民館フェスティバルの実施により、地域の公民館としての役割を果たせるよう事業の情報提供と周知を行い、利用者増とサークル活動支援に努める。</u>
西神楽	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館(農業構造改善センター)は地域住民の催しや集会など活動拠点としてますます重要な施設となっている。今後は地域住民の幅広い年齢層の活動及び相互交流が課題である。 ・高齢者の増加と少子化の影響を受け、生涯学習活動団体等の活動停止や会員数の減少、また事業参加者も減少状態にあり、その速度を抑えていくこと。 ・公民館フォーラムの参加者を増やすこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動団体参加者減少対策として初めてサークル見学会・体験会を実施し、新規の加入があった 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域づくりは地域全体で取り組むことであり、関係団体等と協働を図りながら、子ども達には公民館に親しむ機会をを広げ、高齢者には温もりのある事業を進めていきたい。 ・学校運営協議会が本格的に始動となり、地域住民、学校及びPTAとの深いつながりができ、公民館事業への参加と事業内容を理解してもらう機会が多くなると予想される。 ・西神楽住民、公民館事業参加者、施設利用団体の交流を盛んに行い、住民参加の「音楽鑑賞会」「西神楽地区フロアカーリング大会」の実施など、地域に根ざした身近な施設を心がけていきたい。
春光台	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の事業(親子陶芸、子育てひろば等)に希望者が集中し、施設設備の関係から希望者全員を受け入れることができない。 ・地域包括支援センターと共催での高齢者学習事業の参加者が減少傾向にある。 ・青少年教育でこれまで継続している事業(体験活動、施設見学会、ザ怪談等)での小中学生の参加が減少している。 ・事業参加者やサークル会員などは70代の女性がほとんどであり、40～60代(特に男性)が少なく、その年代への参加を促すことが大きな課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターと協議し、「ゆうゆう生活講座」のテーマを地域住民の関心のあるものに見直しをした。 ・ここ数年参加状況が減少傾向にある青少年事業について、地元小中学校や町内会に開催案内を配布するなど参加を促している。 ・登録団体の活動紹介シートを作成し館内に掲示した。また、年度初めに公民館だよりを配布し、住民へサークル活動紹介を行った結果、新規加入者があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「水芭蕉観察講座」や「風のギャラリー探索講座」以外に、昨年発足した研究団体「文学の小径」と連携を図り、春光台の自然や歴史・文学への理解を広め深める取組みを進める。 ・年明けに実施の百人一首を通した「地域交流会」の内容を見直し、新たに「新春寄席」を企画し参加者増の取組みを進める。 ・通年で実施している各種講座の紹介シートも作成・掲示し、町内会回覧を活用して講座案内を行い参加を促す。
事業係	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭教育支援の親子ふれあい農業体験(田植え・稲刈り、果実加工)は講師の事情により事業自体終了、乳搾りは神居公民館の事業に変更した。 ・高齢者学習のシニア大学と百寿大学の入学生が減少傾向にある。シニア世代を取り巻く雇用環境や生涯学習活動への意識の変化が考えられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シニア大学の見直しを行い、大学と大学院を統合した4年制とし、令和2年度から現行の6年制と併設する。 ・公民館クラブ事業の見直しを行い、公民館で活動する団体等の学習成果を地域に還元する仕組みを簡素化し、効果的な情報提供を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業の実施に当たり、高等教育機関や各分野の公的機関、民間団体等との連携を促進する。

委員からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ボランティア活動の促進 ・効果的な公民館予算のあり方 ・子どもの社会体験の場としての充実 ・コミュニティスクールやPTA活動等での連携 ・まちづくり推進協議会等地域団体との連携 ・大学(教員、学生、退職者)との連携推進 ・子育て支援における大学との連携推進 ・高齢者と若い世代との交流事業 ・シニア大学の卒業後の進路(ボランティアセンターとの連携、育児や学習支援)
-----------	---